

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0174200204), 法人名 (別海厚生企業組合), 事業所名 (グループホームすずらん), 所在地 (北海道別海町別海鶴舞町6-45), 自己評価作成日 (平成30年1月30日), 評価結果市町村受理日 (平成30年3月29日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成16年11月1日に開設し現在に至っています。14年間の年月を経て様々な方達と出会ったことが結果的には経験となって現在に至っています。さまざまな問題にも皆で考え対処できるノウハウを身に着けているように思います。施設内の雰囲気は明るく、利用者、職員問わず同じ話題で笑い合う関係作り、距離感の短さを感じられます。利用者にとってはもちろん一緒に働くもの同士への思いやり優しさも同時にお互いに持ち合わせながら皆で生活している施設です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2017\_02\_2\_kani=true&JigyosyoCd=0174200204-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年3月12日(月))

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別海グループホームすずらんを訪問してまず最初に感じたのは中の雰囲気だった。ゆったりと、和やかな、温かい雰囲気だった。利用者と職員がともに作業したり談笑しており家庭のようであった。「すずらん」企業理念の中にある、住み慣れた地域で安心して生活を継続できるような町の実現の一翼を担っている。また、理念の目標である「いつも笑顔と笑い声が絶えないような生活をめざします」が表現されている。職員は親しみにも礼儀ありと、節度ある接し方で利用者の人格や尊厳を守る事を旨としている。利用者、職員、管理者の関係は良くコミュニケーションが取れており、信頼関係が構築されている。毎年利用者は自分の出身地区のお祭りに職員と出かけたり、地域のお茶会やワンデーサービスに参加して交流を図っている。家族からも信頼が寄せられ共に歩んでいるグループホームである。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のケアが理念に沿ってなされるような取組実践の継続と、法人全体での読み合わせをおこないながら確認し合っている。14年間の取り組みは理念と運動していることを感じられている。	母体の法人事業理念「すずらんの理念」を定め総会で唱和し、理事長の話の中で触れられている。事務所に掲示してある他、新人研修時にはオリエンテーションで教育に努めている。	日々の介護の中で理念を意識し実践に繋がる様な取り組みを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事の積極的参加や法人で行っているボランティア事業(ワンデーサービス)を通して地域への働きかけも行っている。	利用者それぞれの自宅がある町内会に加入しており、この町内会には加入しておらず、暫定会員となっているがゴミ拾い等清掃活動に協力している。以前事業所のお祭りに呼びかけ、参加があった。現在は利用者出身地の祭りに出かけている。また地域住民とはワンデーサービスで交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々な世代やボランティアと交流を積極的におこなうことにより必要な知識や支援の方法等をアドバイスしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で出された意見が実際にサービスにつながったことや今後につながる意見等が数多く出されている。(町の広報誌の全員配布月1度)	年6回開催テーマを決めて、利用者家族、町内会役員、地域代表、老人クラブ役員、民生委員、地域包括支援センター職員その他ボランティアの出席を得て開催している。家族へのお便りにて、開催日時、内容をお知らせしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設運営に関しても町の協力を受けると同時に町からの相談を受けたりなど一方的にならない関係作りが継続的に行われている。	町担当者への報告書関係は管理者、その他はリーダーやケアマネが行っている。その他介護保険の指導や助言を得たり、状況報告を行っており、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことは明示しており、職員にも浸透している。時には勉強会等で身体拘束について再度理解を深めることもある。	外部研修を受講し会議で伝達研修に取り組んでおり、身体拘束の弊害や指定基準における具体的禁止行為を正しく理解している。また不適切な言葉や行為があった時は、職員同士や管理者、主任からの注意、指導があり適切な介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会や、外部研修の参加、職員同士の厳しい目により決して見過ごされない様子を払っている。全員があつてはならないことと理解している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で理解を深めたり、利用者のケースにより必要なかどうかを検討したりしている。契約時には利用者家族にも説明し必要時には検討していただけるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族が納得できる様常に疑問は対応できるようにしている。又入所前にも重要な部分を口頭で説明することがある。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の事業所便りにて生活の様子等を知らせており気が付いたことは、言える関係作りを行っている。家族が訪問時には日常の様子を伝えるなどして必要な意見を受ける体制にしている。	利用者や家族の意見や要望は、日常の会話や面会時の会話の中で把握するように努めている。利用者の日常の様子は、毎月写真を多用した通信を発行しお知らせしており、寄せられた要望は反映できるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員すべてが法人の組合員であり経営にも参画するというスタンスであるため、毎月の理事会にも意見を反映させる機会がある。又年に一度は個人面談があり直接意見を述べる機会がある。	全体会議を毎月開催し、職員から運営、業務についての意見や提案を把握し、反映できるよう取り組んでいる。その他毎年理事長との個人面談があり、意見を述べる機会がある。昨年度から社員制度等、処遇改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実情を見ながら、働き方、手当給与など見直しをおこなっている。現在は夜勤手当等の手当も見直されている。その他手当が厚くなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修に関しては、多くの職員が無理なく参加できるようにしている。参加料の負担もおこなっている。研修に参加した職員は勉強会で発表し全員が学べるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設での研修会なども参加しながらさまざまな施設と交流できるようにしている。グループホーム協会にも加入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必要な情報は、関係機関、家族から集めることはもちろん、本人との会話からたくさんの情報を聞きだし支援につなげ全員で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安は利用者の不安でもあるため不安の残らないような関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスは常に行っているが、見極めにずれがあったとしてもすぐに修正できる臨機応変さも持ち合わせている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者といった一方的な関係だとGHの生活が行えないので共に生活する関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も利用者の一部ととらえ同じ情報を共有しながら、本人家族同じように接している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り情報を集め、馴染みの関係がとぎれないよう努力している。会いたい人、行きたい場所を聞きながら喜んでいただけるような対応をおこなっている。	利用者馴染みの美容室へは、希望がある時は訪問できるよう支援している。その他訪問美容も行われており、その方が馴染みになっている。知人の訪問がある時は、関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共に楽しめたり、支え合ったりできる場面の設定を職員は常に努力し場面作りを行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所により関係が出来た方達はそれ以降も連絡を取り合ったり、関係が断ち切れないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員は毎月生活シートを利用し、情報を共有している。他の職員から意見やアドバイスができることもあり生かし合っている。	利用者の思いや暮らし方の意向は、それまでの情報や出来ることを毎月情報シートで職員が情報共有しており、実現出来るよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要な情報はいろいろな方法を利用しながら把握できるように努めている。利用者が安心して楽しめるために必要なことは積極的である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の支援の中で職員が考察しており、できないこと、こうすればできることを模索し続けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成し家族にも意見を求めたり、アドバイスをもらったりしながら努めている。	介護計画は基本的には6ヶ月毎に、利用者、家族の要望を把握し、モニタリングを行って、職員全員でカンファレンスを行い、現状に即した計画作成、サービス提供に努めている。	全員でのカンファレンスに取り組んではいるが、介護計画の共有と記録への落とし込み等運動できる工夫を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りノート、個人記録生活シートを利用しながら職員全員が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の生活に対し常にベストな状態をもとめていくため、家族とも相談したりしながらも柔軟に又臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者本人が心身の力を発揮し安全で豊かな生活が楽しめるよう必要な資源の把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の医療機関が限られているため適切に受けているかは疑問であるが、家族本人が求める場合は、協力を得ながら他町の受診を行っている場合がある。	地元の医療機関をかかりつけ医として定期的を受診を行っている。また往診を受けている利用者もいる。他町村で他科への受診は家族の協力を得て行っている。グループホームにはパート職員の看護師が在職しており、24時間相談可能になっており、適切な医療が受けられる様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の細かな変化に気づき看護師への相談や受診につなげるような体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期の入院は関係者全員が望んでいることではないので、情報共有しながら適切な治療が終了した時点では退院につなげられるよう病院看護師、MsWと協力関係を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族へ重度化、終末期についての聞き取りや話し合いをおこなっており、他の施設の説明を行っている。状態に合わせながら継続して話し合いをその都度行っている。	重度化した場合や終末期のあり方については、利用契約時に重度化対応・終末期ケア対応指針で説明して理解を得ている。医療機関、当事業所の体制は整っておらず、他の施設への移行等状況に合わせた支援を行う予定となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救急救命の講習を受けている。急変時には救急要請することを全員に周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防火訓練は、消防と関係機関、運営推進委員、家族にも声をかけ行っている。又近隣住民との関係性が緊密になってきており協力体制ができています。訓練の参加は最近は行っていない。	災害対策は年2回運営推進会議の中で取り組んでおり、運営推進委員や消防署担当者から指導と助言を得ている。その他ライフライン断絶等の対策や、防寒対策では、ポータブルストーブ5台、備蓄品を用意して備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が全員意識し合って対処しているが、井の中の蛙になってしまうことがあるので、常に緊張して外部の方の意見なども取り入れていきたいと考えている。	利用者の人格や尊厳を傷つけない対応については職員間で話し合い、言葉遣いは、敬語、丁寧語で対応している。その他、排泄時にはタオルで前面を隠すように取り組み、羞恥心の少ない介助に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必要に応じて、こちらが決めつけず選択肢から選んでもらえるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事のペース等それぞれに合わせて支援しており利用者、職員共にその考えが当たり前となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	正しく衣類が着られるように、見守りと声かけ起床時の整髪をおこないおしゃれを楽しめる機会も多くある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者同士の会話を楽しみながらの野菜の皮むき、下ごしらえ、食器洗い、配膳などを行っている。	昼食は専門の担当職員がおり、両ユニット分の調理をしている。朝食、夕食はシフトの職員が利用者の好みや最近の料理と複雑しない様考慮して献立を決め、下拵えを利用者と一緒に行い、楽しみながら取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取表を利用しながら不足がないように全員で取り組んでいる。不足の際はそれに合った対応をおこない全員で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	殆どの方に対して、毎食後の口腔ケアを行っておりできることに応じて支援内容を変えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、職員全員が利用者の排泄パターンに合わせ必要時には声掛け、介助をおこない失禁を減らしている。可能であればパパンから布下着に変更している。	排泄は全員の記録をつけ、パターンや一人ひとりのサインを把握して誘導を行っており、失敗の少ない排泄に取り組んでいる。排泄に時間のかかりそうな時は、足台やタオルで前を隠して羞恥心がおきない様に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り薬に頼らず、それぞれの方合った食べ物、飲み物を摂っていただいたり、マッサージなど行うなどして、排泄を促すようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせていつでも入れるようにしているため、曜日時間も特に決めていないが殆どは毎日の午後としているが、必要であれば午前中や夕食後としていることもある。	入浴は利用者の希望で行っているが、間隔が二三日開くと勤める様になっている。タイプの違う浴槽があり、状況、状態で使用しており、二人介助の時もあり、適切な対応ができるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調にあわせ休息の時間を自由につくっている。生活習慣にも合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容が変わった時は、全員に周知している。個人の薬一覧表によって、目的、副作用、飲み合わせ等を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等を生かした役割を常に模索し職員は利用者に接している。楽しみについても様々な工夫をこらしたり、お土産を楽しんだりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が行ってみたいであろう場所や、楽しめる場所など自由に行きたい気持ちは全員が感じているが、実現できていないことが多い。	付近には自然が多く、気候が良くなると日常的に散歩に出かけたり、外気浴をしている。全体での外出は少なくなったが、利用者出身地区のお祭りに出かけたり、地域のお茶会や買い物に出かけ、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は所持しているが、殆どの方が管理できず家族の希望によりホームが変わって管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から送り物が届いた時や希望があるときには電話をするが、手紙は積極的に声をかけてすすめることはしていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや居室がわかりやすい工夫を行っている。明かり、におい等も不快にならないよう常に状況をみながら配慮している。季節を感じられるような行事ごとの飾り付けなどもおこなっている。	コの字型の建物でユニットが分かれているが、自由に行き来が出来、タイプの違う浴室があり、利用者に合わせて使用している。グループホームでは、インフルエンザ対策で湿度が保てるように加湿器等で管理しておりまた、清掃担当の職員がおり、清潔に気をつけている。各所にソファが配置され、自由にゆったりと過ごす事が出来るよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人達は自由に会話を楽しんだり、一人になりたい時は自由に居室へ戻ったりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて対応している。入居時には馴染みなものや写真等を飾っていただけよう願っている。	居室には押し入れがあり、利用者はベット、筆筒等の家具を配置し、家族の写真や絵、人形で飾り、居心地良く暮らせるよう工夫している。仏壇を持参している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内は手すりを利用し歩行し動線は危険の無いようにしている。居室内も個々に合わせた動線を守るため家具の配置を行っている。困難が生じた場合は職員で話し合いながら解決に向けている。		